

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	設計・積算関連事業			会計	款	項	目	大事	小事
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	水道工務課					
施策	1-7	水需要に応じた水道事業の展開	主管課長	矢幡 哲夫					

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	水道工務課の職員	意図	設計積算システム、配水管網シミュレーションシステムを用いて設計事務の効率化と統一性を図る。
事業内容	・設計積算システム、配水管網シミュレーションシステムを用いて、工事計画、設計図面及び設計書の作成を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	・工事計画、設計積算事務に相当の時間を要していたが、民間開発によるソフトウェアがインストールされたOA機器を利用すること及び水道（設計）技術支援業務を委託することで設計積算時間の短縮及び統一性を図ることができた。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	OA機器を利用した設計積算の割合	100	100	100	%	
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	45,206,432	50,815,757	52,268,532
事業費(b)(円)	40,126,332	44,909,197	48,247,412
うち一般財源	40,126,332	44,909,197	48,247,412
職員給与費(c)(円)	5,080,100	5,906,560	4,021,120
人役・職員(人)	0.74	0.88	0.61
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	B 削減の余地がややある
総合評価						

(2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	・引き続き、各システムを用いて、工事計画、設計図面及び設計書の作成を行う。	③取組における課題(Check)	・設計積算システムや配給水管システムの保守点検業務委託を単年度契約から長期継続契約に移行することへの検討。
②H30に実施した取組(Do)	・あわせて水道（設計）技術支援業務を委託することで職員の事務負担軽減を図った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	・配給水管台帳システムを下水道建設課のシステムと統合することへの検討。